

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
健康づくりと自立支援、介護予防・重度化防止の推進		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☒ ①健康づくりの推進 ☒ ③介護予防の推進 ☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☒ ④在宅医療・介護連携の推進 ☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果等 高齢化が進展しており、要介護認定者数は2026年度に295人、2040年度には294人と見込んでいる。 高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けるために地域で支え合う仕組みを作り、高齢者の介護予防や要介護状態の軽減、悪化防止のために多様なサービス提供に取り組んでいる。 地域包括支援センターに相談窓口を設置し、住民や医療・介護関係者からの相談に対応している。本人や家族の状況を踏まえ、連携を図っている。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等 各ライフステージに応じた効果的な健康づくりの取り組みが求められる。 労働人口の減少による介護の担い手不足が生じている。 高齢者の介護予防や要介護状態の軽減、悪化防止のために多様なサービス提供に取り組む。 在宅医療と介護を包括的に提供するための関係機関の連携が必要。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組) 運動や食生活などの生活習慣を改善して健康寿命の延伸を図る。 フレイル予防や生活習慣病の重度化防止に向けた保健事業と介護予防の一体的な事業を展開する。 高齢者サロン活動に保健師やリハビリ専門職の助言を取り入れ、活動内容を充実させる。 高齢者の健康づくりや社会参加の活動を推進するために、電子地域通貨と交換できるポイントを付与する「高齢者元気度アップ・ポイント事業」を推進。 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築を推進する。地域住民への啓発活動をさらに推進し、理解促進を図る。				
4 取組の数値目標及び実績（R7年度末時点）				
項 目	数 値 目 標	実 績 値		
		R 6	R 7	R 8
①運動器の機能向上	①回数 4回 延人数 50人	3回 56人	304回 2,179人	-
②フレイル予防	②回数 350回 延人数 2,500人	303回 2,195人	2回 28人	-
③高齢者サロン活動	③登録数 90件 活動数 3,500件	93件 2,824件	95件 3105件	-
5 その他実績（R7年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題 ・各地区公民館で開催している教室について、参加者数が微減している。 ・フレイル予防教室について、専門職不在の期間もあり開催数が減った。 ・高齢者サロン活動については、活動数は増えているもののサロン数が多く、実態把握が困難なケースがある。				
7 課題を踏まえた今後の取組, 改善策（R8年度） ・サロン活動については、後継者不足で廃止になるサロンがある一方、新規で立ち上がるサロンもある。ポイントありきの活動をしているサロンもあるため、サロンの目的をしっかりとおさえるためにサロンリーダー研修会の開催等に引き続き取り組んでいく。 ・専門職不足により、フレイル予防の取り組みが不十分である。今後は複数サロン合同のフレイル予防教室同時開催など、回数を減らして負担軽減を図りながら取り組めるように工夫していく必要がある。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
高齢者の尊厳を理念としたまちづくり		B		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進 ☐ ③介護予防の推進 ☒ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果等 高齢者ドライバーによる交通事故が多発していることが懸念されている。公共交通サービスの維持を図っている。 高齢者の社会活動への参加が生きがいづくりと健康づくりにつながっている。 認知症は特別な疾患ではなく、誰もがなりうるものである。認知症への理解を深めるための普及・啓発活動が行われている。 認知症地域支援推進員が、認知症の人やその家族からの相談を受け、初期集中チームや関係機関とつなぐ役割を担っている。 介護者交流会や認知症カフェで悩みを話し合い、制度の普及・啓発を行っている。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等 高齢者ドライバーの安全運転への意識が不足している可能性がある。バリアフリー化の対応が十分でない地域がある。 高齢者が社会活動に参加する機会がまだ限定的である。 認知症に関する正しい知識や介護情報の普及がまだ不十分である。地域全体で正しい認知症知識のさらなる普及が求められる。 徘徊・行方不明などの緊急時の対応力を強化するために、見守り体制の細部の整備が必要である。 感染症発生時における介護サービス提供の継続的な体制整備が求められる。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組) 高齢者や家族を対象とした交通安全教育を推進する。路線バス・コミュニティバス等の運行効率化を進め、利用促進を図る。 地区支え合い協議会や社会福祉協議会と連携し、高齢者サロンや地域ボランティアの育成・活動支援を推進する。 南種子町シルバー人材センターの運営支援を通じて、高齢者の社会参加を推進する。 認知症ケアパスの情報を更新し、ホームページでの普及啓発活動を行う。 認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う「認知症地域支援推進員」、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築するため「認知症初期集中支援チーム」を配置。介護者交流会や認知症カフェで、悩みを話し合い理解を深め、精神的・身体的負担の軽減を図る。				
4 取組の数値目標及び実績（R7年度末時点）				
項 目	数 値 目 標	実 績 値		
		R 6	R 7	R 8
①高齢者の見守り支援	①対象数 45人 回数 1,200回	26人 934回	26人 835回	-
②認知症初期集中支援チーム	②支援実人数 4人 訪問延人数 20回 チーム員会議の開催数 4回	7人 16回 4回	6人 15回 1回	-
③認知症カフェの開催	③開催日数 20回 延人数 150人	14回 99人	16回 102人	-
5 その他実績（R7年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題 ・ 独居高齢者を対象とした見守り支援事業は、対象者数が減少している。介護サービスにつながり終了となるケースもあるが、子供が住む島外への転出も増えてきている。 ・ 認知症カフェについては、参加者の要望等も取り入れながら内容の検討ができています。屋外の活動も積極的に取り入れているが、参加人数の増加に伴いスタッフ数の不足も懸念される。				
7 課題を踏まえた今後の取組, 改善策（R8年度） ・ R7年度に発足したチームオレンジの活動を継続して活動できるよう、定期的に支援する。また、令和8年度1箇所チームオレンジの発足に積極的なサロンがあるため、そのサロンへの説明・認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座等を実施する。 ・ R7年度に発足したボランティアグループの支援をする。 ・ 認知症カフェ実施に伴う体制づくりに努める。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
高齢者を支える仕組みと体制づくり		C		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☒ ①健康づくりの推進 ☐ ③介護予防の推進 ☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☐ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果等				
緊急通報装置をひとり暮らしの高齢者等に貸与して、急病や災害時の緊急対応を行っている。 敬老金支給事業を通じて、満80歳・満85歳・満90歳・満95歳・100歳・101歳以上の高齢者にお祝い金を贈呈している。 老人クラブの活動を支援し、知識や経験を活かした生きがいづくりや健康づくり、奉仕活動を推進している。 高齢者同士の交流を促進し、各種団体と連携して社会参加を促進している。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等				
介護予防・生活支援サービス事業において、介護サービス事業者以外の多様な主体によるサービスの充実が進んでいない。 老人クラブ活動は各地区において活発に行われているが、未加入者の増加など参加者の偏りが課題である。 地域性から持ち家率が高いため、住宅のバリアフリー化が課題である。				
3 第9期計画における具体的な取組 （①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組）				
緊急通報装置の操作説明や利用者サポートを充実させ、緊急時対応を見直す。 高齢者の交流や社会参加を促進するため、温泉センターや公民館を活用。 シルバー人材センターや地域団体と連携し、高齢者がまちづくりに参加できる環境を整備。				
4 取組の数値目標及び実績（R7年度末時点）				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①配食サービス(高齢者・障害者)	①実人数 2人 延利用者数 200人	1人 103人	1人 657人	-
②緊急通報装置貸与	②貸与台数 15人	11人	8人	-
③	③			-
5 その他実績（R7年度末時点） （4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績）				
6 取組と実績を踏まえた課題				
多様な主体によるサービスの提供体制の確立が必要である。 地域社会全体で高齢者を支える体制の確立が必要である。 社会参加を促進するための支援体制が不十分である。 高齢者の就労希望に応じた多様な働き方の選択肢が不足。 雇用・就労支援が特定の地域や高齢者に集中している可能性がある。				
7 課題を踏まえた今後の取組, 改善策（R8年度）				
地域支援事業については、多様な主体によるサービスの提供体制を構築することが難しい。 本地域では、離島過疎地域・人口減少・少子高齢化といった状況から、NPO法人やボランティアのような組織よりも公民館や地縁組織、民生委員といった地域に根差した組織と地域支援事業の親和性が高いことから、これらの組織を活用した地域包括ケアシステムの構築を図る必要がある。 南種子町シルバー人材センターと連携し、高齢者の就労ニーズに合わせた職業情報の提供や相談体制を充実させていく。				

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	南種子町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
介護保険サービスの基盤整備		C		
カテゴリ ※複数回答可。該当するものがない場合はチェック不要。				
☐ ①健康づくりの推進 ☐ ③介護予防の推進 ☐ ⑤認知症の人やその家族への支援の充実	☒ ②地域包括ケアシステムの推進に向けた体制整備 ☐ ④在宅医療・介護連携の推進 ☒ ⑥介護人材の確保対策の充実及び生産性向上			
1 第9期計画開始前の現状 ⇒見える化システム, 保険者シート等に基づく地域分析結果等 全国的に介護人材不足が問題となっており、本町でも介護人材の減少と高齢化が課題である。 地域包括支援センターが地域住民の心身の健康保持と生活安定を目的として機能している。 介護予防ケアマネジメントを実施し、介護予防サービスと地域支援活動を組み合わせた総合的なケアプランを作成している。 地域支援事業では、要支援者等に対する要介護状態の予防や軽減を支援している。				
2 1に対する課題（第9期計画における取組を設定した背景） ⇒R5自己評価等を踏まえた課題等 介護人材の確保が難しく、特に若年層への介護職の魅力をどう伝えるかが課題である。 地域包括支援センターの評価と機能強化を継続的に行う必要がある。 介護予防ケアマネジメントの利用者の自立支援の効果をさらに高める必要がある。 地域包括支援センターの機能強化に向けた人員体制の適切な確保と業務効率化が必要である。				
3 第9期計画における具体的な取組 (①の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組) 広報誌・ホームページ等で介護保険サービスの周知活動、県や関係機関との連携を強化し若年層に介護職の魅力を発信する。 離職した介護人材の呼び戻しや中高年齢者の就労促進を行う。介護ロボット・ICTの活用により業務効率化支援を行う。 事業主任介護支援専門員を配置し、「地域ケア会議」を通じて自立支援型ケアマネジメントの支援を推進する。 利用者の自立支援を目指し、介護予防サービスと地域支援活動を組み合わせたケアプランの質を向上させる。 適切な人員体制を確保し、業務の重点化・効率化を進め、地域包括支援センターの機能強化を図る。				
4 取組の数値目標及び実績（R7年度末時点）				
項 目	数 値 目 標	実 績 値		
		R 6	R 7	R 8
①介護職員初任者研修	①受講者数 15人/年	13人/年	6人/年	-
②総合相談支援事業	②相談延件数 100件	116件	78件	-
③地域ケア会議推進事業	③会議実施状況 6回 5例	6回 6例	6回6例	-
5 その他実績（R7年度末時点） (4の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
6 取組と実績を踏まえた課題 ・総合相談件数は前年度比減少した。 ・地域ケア個別会議は計画どおり実施できたが、研修等開催ができていない。 ・不足する介護人材の育成確保のため、介護職員初任者研修を開催した。				
7 課題を踏まえた今後の取組, 改善策（R8年度） ・総合相談件数は前年度比減少しているものの、相談内容は様々な要因が複雑に絡み合っており、対応に時間を要するケースも多い。必要時、関係機関と連携しながら対応できるようにしていきたい。 ・地域ケア個別会議に伴う研修の開催を検討する。 ・介護人材の確保が最重要課題。人材確保や育成に向けた新たな支援を検討する。				